

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Familyはじめのいっぽ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 18日		2025年 12月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 11月 18日		2025年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が勤務していることで、通所されているお子様を様々な視点からアセスメントし、分析、計画立案することができること。	毎日のミーティングや会議を通じ、情報交換、相談を頻回に行っている。	アセスメントに基づき立案した計画書を日々の支援で確認していき、プログラムが目標とあっているかどうか、方向性を常に意識していく。また、保護者への説明も計画書を軸としながら行うことで、小さな成長もともに喜んだり、ともに考えたりしていくことができると考える。
2	完全なバリアフリー環境でなく、家屋環境であるため、日常生活での困難さがみえやすく、練習の機会となることもあること。	ケガのないよう、年齢にあわせて見守りや補助具の使用は検討し、実施している。	教具やおもちゃの選定をし、午前午後の年齢の違いにより環境を変えることができるよう、工夫していく。
3	他事業所、支援機関とのつながりが多くあるため、保護者から相談を受けたときに適した機関につなぐことができる。	来所時の雑談の中や、イベント時の様子などから、保護者様が個別面談が必要と考えられるときは声をかけをしたり、希望される時に個別相談を受けられるよう機会を設けている。	医療機関や地域支援機関とのつながりをより多くもち、必要時に連携がとれるようにすることで、利用者様、ご家族がより安心して生活できるよう、尽力していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の活動場所が古民家であり、収納スペースが設置しづらいため、視覚、聴覚刺激が多い環境になりがちである。	住宅を改修した事業所であるため、収納や業務カウンターの設置が困難である。	収納、目かくしなどの設置方法を検討していく必要がある。
2	スタッフによるご家族やご利用者様に対するアプローチ、伝え方の違いがある。	多職種が関わっている利点がある一方、スタッフによって利用者様のとらえ方の違いが大きくあることがあり、対応の違いが生まれ、利用者様、ご家族様が戸惑うことがある。	コミュニケーションを密にとり、スタッフ間で違いを感じたときには、その対応の理由や考え方を聞き、意見を出し合う。ご利用者様ご家族様のお話を聞く機会を多く持ち、対応に疑問を持った時に伝えていただきやすい環境設定をする。
3	職員間の情報共有が徹底できていない。	勤務時間による職員の入れ替わりがあり、情報を伝達すること、また情報を確実に共有することが、困難なときがある。	ミーティングで話をした内容や、その日に知りえた情報で共有することをまとめておく、などし、全員が情報を得られるようにする。記録の共有方法も、職員が共有しやすい方法を検討していく。